



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	北九州市立小森江東小学校 4～6学年 全クラス 52名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間 国語科 体育科)</p> <p>総合的な学習「新聞社の記者とオリパラ」</p> <p>国語科 「はがき新聞にまとめよう」6年 「感想文にまとめよう」4・5年</p> <p>体育科 「ジャンピングマットを使い、トランポリンの感覚を味わおう」</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック2020に向けて新聞記者から直接に報道の在り方を聞き、オリパラやスポーツについて興味・関心を高める。 ○ 実際にジャンプやジャンピングゲーム(トランポリン)をすることで、スポーツを好きになるようにするとともに、スポーツの楽しさを実感させる。 ○ オリンピック・パラリンピック2020に出場する選手たちを応援しようとする心情を育てる。
5 取組内容	<p>西日本新聞社の運動部の記者からオリンピック・パラリンピック2020の報道の在り方(五輪に期待することやどのように新聞社が報道するか)を出前授業の講師として迎え、聞いた。</p> <p>講師の手島 基氏は、1996年のアトランタ五輪報道の経験があり、選手の活躍の裏側にある涙や汗、努力をインタビューなどした上で、取材して伝えていることを子どもたちに語った。さらにマスコット投票についても触れ、なぜこのような取組をしているのかも語った。</p>  <p style="text-align: center;">＜新聞記者の講話＞</p> <p>前回のリオオリンピックで金メダルを獲得した北九州市生まれの体操の内村航平選手への期待を話し、東京オリンピック・パラリンピックまで917日しかないことや、生きている間で、日本でオリンピックが行われる最後になるのではという話があった。オリンピックで皆さんも何かを感じてほしいと言ってお話を終えた。</p> <p>その後、6年生は教室で一緒に給食を食べながら、新聞記者の方と交流した。日頃新聞記者と話すことがないので、興味深く話を聞いていた。</p> <p>6年生は、後日、はがき新聞作り(はがきの大きさに新聞形式でまとめたもの)に取り組ん</p> 

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピックについて、新聞の役割や新聞記者の目からみた競技について、子どもに分かりやすく話していただいた。 ○ ジャンピングゲームでは、簡単な運動で誰もがスポーツ（運動）を楽しめるようにした。 ○ 自分たちが疑似体験をすることで、オリンピック・パラリンピックを身近にとらえさせるようにした。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピックの競技をいろいろ体験させたかったが、道具や安全面でできない。 ○ オリンピック・パラリンピックに関する新聞記事や資料等を子どもたちに触れさせたり読ませたりしたいが、費用がない。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校独自のジャンピングマットを使った競技を個人でしたが、次年度は団体（グループ）競技としてやってみたい。 ○ スポーツに親しむために、他の競技ができないか考えていきたい。 ○ NIEについては、実践指定校ではないが、継続して取り組みたい。